

## 第一次ロシア革命

ロシア第一革命とも言う。 No.160を参照せよ。

1905年1月22日、ペテルブルク冬宮への平和誓願デモ行進に軍隊が発砲、約千人前後が死傷した（死者2000人とも言われる）「血の日曜日事件」をきっかけとして始まり、全国に波及。ニコライ2世は10月勅令でドゥーマ（国会）開設を約し、自由主義者のウィッテを首相に登用した。日露戦争終結により帰還した軍隊は呵責無い鎮圧に動員された。第一次ロシア革命最後の暴動は12月5日モスクワで勃発、政府は7日に派兵し、市街戦が始まり、皇帝の軍隊は、労働者が占拠する区域を砲撃した。18日（旧暦）、約千人が死亡し、ボリシェヴィキは投降した。その後の報復で数知れぬ人々が殴打され殺された。こうして第一革命は1905年の内に鎮圧され失敗に終わったが、このような国家権力による露骨な弾圧と不条理な殺戮は当時のロシア国民の胸の奥深くに刻み込まれ、1906年から1911年までのストルイピンの反動政治の期間も忘れられることはなかった。

## 第二次ロシア革命＝二月革命

ロシア第二革命とも言う。端的に言えば、二月革命（三月革命）を指す。

- 1) 1916年夏には度重なる動員に抗議して、中央アジアで諸民族が蜂起したが鎮圧された。1917年3月、首都【1:   
】※1で労働者が「パンと平和」を求めて大規模なデモやゼネストを起こすと、兵士もこれに合流！これをペトログラード暴動という。
- 2) 1917年3月 **ロシア暦（ユリウス暦）では2月！** これが第二次ロシア革命  
ペトログラード暴動に始まった反政府運動は農村にも波及、土地を求める農民の蜂起が広がり、全国的に革命状況に陥った。これが二月革命（＝第二次ロシア革命）の始まりである。  
その背景としては、①第一次世界大戦下の、食料、燃料不足から厭戦気分が広まっていたこと。②大敗が続き戦意を喪失していたこと。③資本家も政府批判を行うようになったこと。などがあげられる。  
この反政府運動は、皇帝（ツァー）の専制政治打倒を目指す革命運動に発展、各地に労働者・兵士の代表機関である【2:   
】（あるいはソヴェト）が結成された。【3:   
】は退位し、**ロマノフ王朝は滅亡した**※2。  
議会の自由主義派の【4:   
】を軸に**臨時政府**が樹立された。ここまでが二月革命である。**社会革命党**（通称「エス＝エル」）と**メンシェヴィキ**も当面これに協力した。臨時政府は普通選挙による議会を招集すると宣言したが戦争は続行した。

### 「すべての権力をソヴィエトに！」

- 1) 二月革命後、**労兵ソヴィエト**が急速に力を増し、ロシアは「権力が2つある」状態になった！これを「二重権力」状態と言う。その中で、農村では農民革命が、ウクライナやフィンランドでは民族革命が行われた。  
ブルジョワジーの **臨時政府** VS 労働者、兵士の **労兵ソヴィエト**  
英仏との関係を重視 **戦争継続！** 平和とパンを！
- 2) 1917年4月、亡命先のスイスから【5:   
】帰国 ※3、「**四月テーゼ**」を発し、労働者と農民の革命を結合するよう説いた。有名な標語は「**すべての権力をソヴィエトに！**」。  
これに対抗して、臨時政府は、メンシェヴィキ（ソヴィエトでは多数派）と社会革命党を入閣させ、7月には、臨時政府首班に社会革命党右派の【6:   
】を就任させた。彼らは社会改革を約束したが、戦争はなおも続行した。この状況を社会革命党とメンシェヴィキは容認した。戦局は好転せず、臨時政府の威信は低下する一方だった。この間にレーニン率いるボリシェヴィキは、ソヴィエトの中で次第に多数派となっていく。

## 十月革命

1917年11月7日

- 1) レーニン・トロツキーらの指導する【7:   
】が、ペトログラードで武装蜂起し、【6】政権を打倒し、**社会革命党左派**の協力を得て**ソヴィエト政権**を樹立した。翌日の1917年11月8日、全ロシア＝ソヴィエト会議は、新政権の樹立を宣言した。もちろん、これは**世界最初の社会主義革命**である。即日、2つの重要な布告（後掲①②）を発した。ソヴィエト政権の議長（首相）はレーニン、外務人民委員（外相）はトロツキー。なお、【6】は反革命軍を組織したが敗北、亡命した。
- 2) レーニン新政権の初仕事 **まさに社会主義国家でなければ決してできないことを実行した。**
  - ①【8:   
】1917.11.8…【9:   
】を廃止し、**地主の土地を無償で没収**した。  
これは生産手段の公有化を特徴とする社会主義政策の第一歩だった。
  - ②【10:   
】1917.11.8…「無併合・無償金（無賠償）・民族自決」に基づく、公正にして民主主義的な講和の即時締結を全交戦国に呼びかけた。連合国はこれを黙殺し、どの国も応じなかったが、平和に向けての取り組みを求められることになった。ウィルソンの十四か条も、これに対抗して出されたものである。なお、これが黙殺されたので③を行ったとされている。
  - ③秘密外交の廃止を宣言、旧ロシア政府が結んだサイクス＝ピコ協定など**秘密条約を暴露**。帝国主義戦争の本質を暴露した。
  - ④旧ロシア政府が侵略によって得た権益を放棄することを宣言。  
これ以降、ロシア暦（ユリウス暦）を廃しグレゴリウス暦となる。

## ボリシェヴィキ独裁の成立

- 1) 【11:   
】（ロシア最初の議会）の議員を選ぶ選挙は1917.11.25に実施され、当然普通選挙だった。ところが、戦争継続を主張する【12:   
】が**農民票を集めて圧倒的多数**を占め「**勤労人民と被抑圧人民の権利の宣言**」を否

決した。レーニンらは、このような人々に政権を譲り渡すことはできないと考えた。

2) 1918. 1. 19 レーニンは憲法制定議会を武力で閉鎖・解散させた。※4

これをもって、いわゆる「プロレタリアの独裁（ディクタトゥーラ）」（事実上、ボリシェヴィキの独裁）が成立し、「西ヨーロッパ流の議会制民主主義とは異なる」（某社教科書の表現）政治体制が形成された。レーニンによって「当分の間」とされたプロレタリアの独裁は事実上の【13: 】として継続され、後にはスターリンの個人崇拜へと展開した。

3) ソヴィエト政権に反対する反革命軍（白軍）との激しい内戦及び対ソ干渉戦争と同時並行で、次のような経過を見た。

1918. 3. 3 ドイツと単独講和（後掲）

1918. 3 【14: 】は、ロシア共産党と改称。首都をモスクワに移す（200年ぶりに首都）。

1918. 7. 10 ロシア=ソヴェト社会主義連邦共和国憲法を制定。ソ連邦成立は正式には1922年12月。それまでの講学上の呼称はソヴィエト政権である。

1918. 7. 17 ソヴィエト政権は、ニコライ 2 世含む皇帝一家 7 人、従者 3 人、侍医 1 人を殺害。

1918年後半以降は、事実上一党支配体制。地主からの土地の無償没収と農民への分配、**基幹産業、銀行、貿易の国有化**が断行された。1920年には反革命軍（白軍）は鎮圧され、諸外国の干渉軍も日本を除き撃退された。

## ソヴィエト政権初期の外交

1) 1918年3月3日 ソヴィエト政権は、ドイツと【15: 】を結び単独講和した。これはソヴィエト

政権が「平和に関する布告」で主張した「無併合・無賠償・民族自決」によるものではない！国際的に孤立無援のソヴィエト政権は強大な軍事力を誇示するドイツに大幅に譲歩せざるをえず、ポーランド、フィンランド、ウクライナ、ベラルーシなどを割譲するという不利益なものだった！この条約はドイツの敗北で後に無効とされた。

2) 「平和に関する布告」に基づいて、ソヴィエト政権は、旧ロシア帝国が奪った領土を一方向的に返還した。侵略によって得た領土を、軍事的敗北なしに返還した人類史上ほとんど唯一の例であろう。

フィンランドおよび、エストニア、ラトヴィア、リトアニア（バルト3国）を放棄。

3) 内部に対立する思想を抱えながら、ボリシェヴィキ政権は全体として世界革命論 ※5（国際的規模で共産主義革命を推進する思想）に立脚していた。レーニンは、ロシアで社会主義建設が成功するためには、先進資本主義国で革命が起こることが不可欠だと考え、1919年 【16: 】（コミンテルン、第3インターナショナル）を結成した。

①各国の社会主義者を組織→1920年代、世界中の国々に共産党が樹立された。例 1922年、日本共産党結成

②世界中の民族解放闘争を支援、1930年代にはファシズムとの闘争を組織し、一定の役割を果たした。

しかし、ハンガリー・ドイツなど敗戦国での革命は失敗し、民族運動への支援も中国を除いて失敗に終わり、世界革命の構想は敗れた。【16】は、第二次世界大戦中の1943年に、対米協調のため解散した。

4) 国境をめぐるポーランドとの対立はポーランド=ソヴィエト戦争（1919～1921）に発展した。本書No.173参照

5) 1919年 カラハン宣言 Karakhan 1919年、ソヴィエト政権の外務人民委員代理カラハンが帝政ロシア時代の対中国不平等条約の無償廃棄などを宣言したもの。五・四運動で民族主義にめざめはじめた中国各界に大きな反響を呼んだ。しかし翌20年の再宣言では、東清鉄道を除外するなど、やや後退した。

6) 病床から「革命の後継者」を心配していたレーニンは、1924年死去。後継者争いが起こった。

「一国社会主義論」	対立	「世界革命論」	勝者はスターリン
スターリン		トロツキー	

## 対ソ干渉戦争

内戦と一体となつて行われた諸外国軍隊の軍事干渉戦争

本書No.172参照

1) 1917年12月 英・仏は秘密協定を締結し、反革命軍を支援。1918年4月からロシア領に侵入。

2) 1918年8月 日・米がチェコ軍団救出を口実にシベリアに出兵した。

3) ソヴィエト政権は【17: 】の強化と戦時共産主義体制によって対抗して干渉を退けた。

※1 現在(1991～)「サンクト=ペテルブルク」。1914～24年はペトログラード（旧称サンクト=ペテルブルクはドイツ風なので、24～91年はレニングラードとよばれた。1918. 3 首都はモスクワにうつる。なお、第二次世界大戦におけるレニングラード包囲戦（1941年9月8日～1944年1月18日）は記憶すべきである。これは第二次世界大戦時のエピソードなので間違えないように。本書No.186

※2 1918年7月17日、前年のロシア二月革命で退位していたロマノフ家の皇帝ニコライ 2 世の一家全員と従者3人。主治医1人は、幽閉されていたシベリアのエカテリンブルクでボリシェヴィキ政権により全員が銃殺された。70年続いたソ連時代、皇帝一家の最期について語ることは、タブーとされ学術的調査さえ出来ず、国外ではさまざまな憶測が飛び交い、「自分は末娘のアナスタシアである」と名乗る人物が何人も出現する有様だった。1991年以降ペレストロイカ、グラスノスチの高まりで科学的な調査が実施され、全員の遺体が発見され、ほぼ本人であるという鑑定がなされた。

※3 二月革命が勃発した時、レーニンは亡命地のスイスのチューリヒにいた。革命勃発の知らせを受け、ただちにロシアにもどることとしたが、大戦中であり敵国であるロシア人がドイツ国内を通行することはできない。そこで極秘裏にドイツ当局と交渉し、一切ドイツ人と接触しない「封印列車」でドイツ領内を通行する条件で認めさせた。ドイツとしても、ロシアの革命が進み、戦争から離脱すれば西部戦線に全力を傾けることが出来るので、レーニンの通過を認めたものと思われる。

※4 社会主義政権の成立にあたっては、常に暴力的移行（暴力革命）が必然的か、平和的移行はあり得ないのか、今も論争されている。1970年成立のチリのアジェンデ政権は史上初めて選挙で成立した社会主義政権であるが、73年にアメリカ主導の軍事クーデタで倒された。

※5 1920年4月、ポーランド軍がロシアに侵攻してポーランド=ソヴィエト戦争が始まった。レーニンは赤軍にワルシャワへの進撃を命じた。レーニンは赤軍がワルシャワに入れば、ポーランドの労働者はそれに呼応して立ち上がるだろうと期待したのだった。ところが、ワルシャワを前にして赤軍は大敗北を喫した。ポーランドの労働者は祖国防衛という民族主義理念の方に動かされ、赤軍に動員されたロシア農民は、内戦や干渉戦争で見た戦闘意欲をこの戦いでは発揮しなかった。多くの赤軍兵士は「革命を輸出して」国際革命のために戦うという大義に従うレベルにはなかったのだった。その後も、1919年のハンガリー革命・1921年のドイツ革命がいずれも失敗し、レーニンの国際革命は実現せず、コミンテルンはロシア共産党に従属する各国支部という性格のみが強まっていった。